

平成27年度行政事業レビューシート(復興庁)

事業名	東日本大震災復興推進調整費			担当部局	復興庁			作成責任者
事業開始年度	平成23年度	事業終了(予定)年度	平成32年度	担当課室	統括官付参事官(調整費担当)			参事官 廣光 俊昭
会計区分	東日本大震災復興特別会計			政策・施策名	政策：復興施策の推進 施策：東日本大震災からの復興に係る施策の推進			
根拠法令(具体的な条項も記載)	-			関係する計画、通知等	東日本大震災からの復興の基本方針(平成23年7月29日東日本大震災復興対策本部(同年8月11日改定))			
主要政策・施策				主要経費	その他の事項経費			
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	被災地域の復興に向けた事業を実現するため、 ・機動的対応を要する事業 ・翌年度以降の制度創設等を視野に実施する事業等について速やかな実施を確保することを目的とする。							
事業概要(5行程度以内。別添可)	地域の柔軟な発想に基づく、復興のためのソフト事業を被災各県等が実施するための経費。当初予算においては、目未定経費として計上されており、被災各県等からの具体的な要望に基づき、年度途中の諸状況に応じ、財務大臣との執行協議を経て配分される。復興庁自身が実施するものを除き、関係府省庁に予算を移し替えて事業を実施している。							
実施方法								
予算額・執行額(単位:百万円)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度要求		
	予算状況	当初予算	5,000	10,000	5,000	3,000		
		補正予算	-	-	-	-		
		前年度から繰越し	1,397	256	-	-		
		翌年度へ繰越し	▲256	-	-	-		
		予備費等	-	-	-	-		
		計	6,141	10,256	5,000	3,000	0	
	執行額	1,898	2,506	204				
執行率(%)	31%	24%	4%					
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	24年度	25年度	26年度	目標最終年度 年度
	制度の性質上、事業内容及び事業数が各年度異なり、定量的な成果目標の設定は困難。	成果実績						
		目標値						
		達成度	%					
定量的な成果目標の設定	定量的な目標が設定できない理由	定性的な成果目標と24~26年度の達成状況・実績						
	制度の性質上、事業内容及び事業数が各年度異なり、定性的な成果目標の設定は困難。	-						
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標		単位	24年度	25年度	26年度	27年度活動見込	
	採択事業数	活動実績	事業数	47	26	7		
		当初見込み		-	-	-	-	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	24年度	25年度	26年度	27年度見込	
	年度中に配分した事業実施に要する国費の総計/採択事業数	単位当たりコスト	百万円	22	105	34		
		計算式	百万円	1,055百万円/47事業	2,719百万円/26事業	239百万円/7事業		
平成27・28年度予算内訳(単位:百万円)	費目	27年度当初予算	28年度要求	主な増減理由				
	(目未定経費)	3,000						
	計	3,000	0					

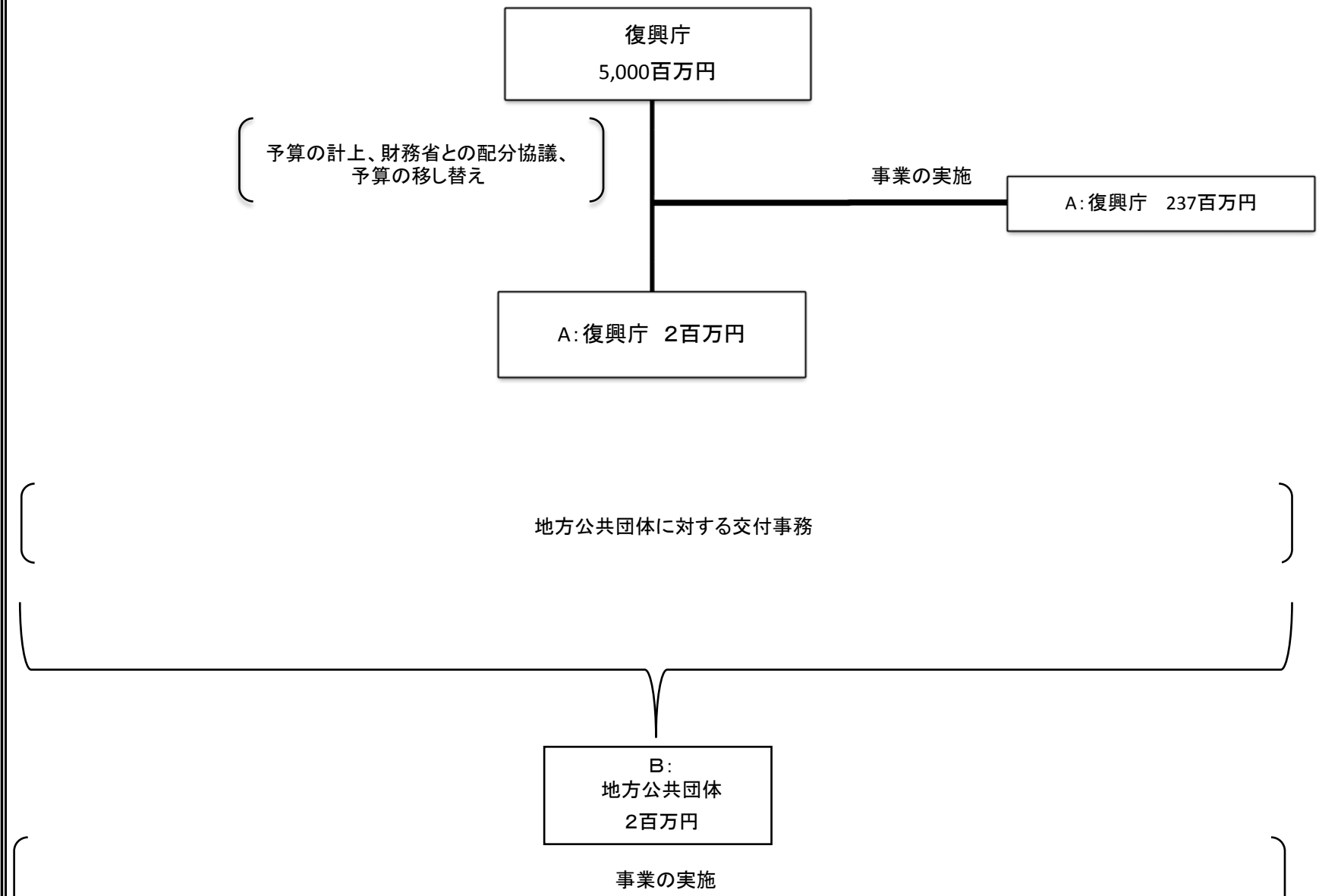
事業所管部局による点検・改善				
	項目		評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。		○	被災各県等からの具体的要望に基づき、必要性及び緊急性を有する事業に限って配分していることから、その手法をとらまえば、それらは反映しているといえる。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。		○	国が特定被災区域における復興を加速させることを目的に行うものであることから、委譲できる事業ではない。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。		○	国が特定被災区域における復興を加速させることを目的に、被災各県等からの具体的要望に基づき配分するものであるから、過大でなく適切である。既存予算・制度では行えない事業に対応するものであり、復興の遅滞を招かないためにも必要であり、かつ優先度は高い。
事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		-	個別事業の実施主体に対し、予算配分するものである。項目に示すことが妥当であるかは、当該主体において判断すべきことである。
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	同上
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		-	同上
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	仮に、被災県への補助金が該当するならば、個別事業の内容に応じた所管省庁に移し替えている点、合理的といえる。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	被災各県等からの具体的要望に基づき、必要性及び緊急性を有する事業に限って配分している。なお、本事業経費は目未定である。
	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		○	被災地における復興が進展し、各府省庁の予算による様々な制度の整備が図られており、事業数の減少とともに不用率が大きくなっている。
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか		-	個別事業の実施主体に対し、予算配分するものである。項目で示すことが行われているかは、当該主体において判断すべきことである。
事業の有効性	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか		-	制度の性質上、事業内容及び事業数が各年度異なり、定量・定性的な成果目標の設定は困難である。
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	被災各県からの具体的な要望が既存の補助制度で行える事業である場合は、既存の補助制度等において対応することとしている。その対応ができない場合に限り本経費で応じるものであることから、必要最低限の運用コストとなっている。
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		-	制度の性質上、事業内容及び事業数が各年度異なり、活動実績の見込みの設定は困難である。
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		-	個別事業の実施主体に対し、予算配分するものである。当該活用がされているかは、当該主体において判断すべきことである。
関連事業	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		○	被災各県からの具体的な要望が既存の補助制度で行える事業である場合は、既存の補助制度等において対応することとしており、適切な役割分担となっている。
	所管府省・部局名	事業番号	事業名	
点検・改善結果	点検結果			
	改善の方向性			
外部有識者の所見				
行政事業レビュー推進チームの所見				
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況				
備考				

関連する過去のレビューシートの事業番号

平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	9
平成25年度	003	平成26年度	009		

※平成26年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



A.復興庁			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
東日本大震災復興推進調査費	事業の実施	234			
東日本大震災復興推進調査等補助費	地方公共団体に対する交付事務	2			
職員旅費	事業の実施	3			
計		239	計		0
B.地方公共団体			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
東日本大震災復興推進調査等補助金	事業の実施	2			
計		2	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	復興庁	事業の実施	237	-	-
2	復興庁	地方公共団体に対する交付事務	2	-	-

B

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	地方公共団体	事業の実施	2	-	-